

(十一月のことば)

宗家

人前に出る

声を出す

それだけで

それが有難いことだった

十月に入り自粛要請が緩和され、何より感染者が減少してきた。コロナは不自由さと経済の混乱をもたらしたが、一方静かに物事を考えさせてくれた。そのことが馴れ合いでなく、制約されたり、失おうとする時、物事の必要性と有難さを気付かせて呉れた。

潜んでいた真の価値観に気付かせてくれたのだ。不自由を知った人は物事の真の意義を求め、真の欲びを感じるのではなからうか。

私の担当講座でも欣喜雀躍として再会を欲んだ人もあれば、如何にも感じ入って一緒に声を出している人が見うけられた。自粛したのはご家族の要請もあったのだろう。新鮮な「気付」となった。この環境を大切にしなければと思う。指導者はそんな意味でも一層励まなければならぬ。独りでは何にも出来ない。価値感の共有が出来るのも今の世界だ。岳精会だ。

人は今、改めく何かをやりたいと思っている。人生はまだまだ続く。この時こそ自信を持って勧めよう。吟の道と。

コロナさん、コロナさん、今からそのまま、どうか静かにしておくれ。

(令和三年十一月)